

李香蘭 Night

第一部

新しき夜
宵待草
海燕
何日君再来
夜来香
東京夜曲
懐かしのタンゴ

出演 飯田映理子 (Sop) / 寺岡拓士 (二胡) / 早川純 (バンドネオン)
宮城幸奈 (Cl.) / 堀沙也香 (Vc.) / 高橋悠之輔 (Pf.)

スタッフ チラシデザイン 平井辰夫 / 音源作成 児島巖 (トランスライブ)
動画撮影 大木忠幸 / 記録撮影・ディレクター 迫田大樹
字幕歌詞英訳 高橋公雄

第二部

Persian Bird
虚飾の街 I 〜どこにもない過去へ〜
夜霧の馬車
賣糖歌
私の鶯
蘇州夜曲

楽曲解説

李香蘭、山口淑子、シャーリー・ヤマグチ、大鷹淑子ほか、数多くの名前を持ち、中国、日本、香港、ハリウッドを中心に活動し、歌手、映画・演劇・ミュージカル俳優、外交官夫人、ジャーナリスト、政治家、それぞれに大活躍をした李香蘭。時代や場所により、さまざまなイメージを託され、翻弄されながらも貪欲に求められる役割を公私ともに演じ続けてきた彼女が歌った曲は、彼女の魅力や歌唱力を引き出す魅力的なものばかりです。本日は、タンゴ、ジャズ、西洋芸術音楽、民謡、歌謡曲、さまざまなジャンルが入り混じる名曲の数々を、世界中のどこにもない(?)、独特で多彩な編成による演奏でお楽しみください。

「新しき夜」は、映画『私の鶯』挿入歌で、生きる喜びを謳歌する若者の心意気みなぎるサトウハチローの詞に、服部良一による軽快な行進曲風の快活な音楽が添えられています。『私の鶯』は、ハルビンの白系ロシア人社会を舞台とする映画で、国際的なハルビンの音楽界のドキュメンタリー的も持つ、音楽にあふれた作品です。ロシア語・日本語・中国語の会話や歌唱が入り混じり、各言語に堪能な李香蘭の面目躍如が見てとれます。映画の中では、「新しき夜」は李香蘭演じる主人公が、生活の糧を得るためナイトクラブで披露した曲の一つとして、ロシア語の歌詞で歌われます。

「宵待草」は、竹久夢二が旅先で出会った女性との叶わぬ恋の思い出から、恋人を待つ自らを宵待草に重ねて憂いた詩に基づいています。「待てど暮らせど来ぬ人を」で始まる短い歌詞に、多忠亮による抒情的な音楽が付され、竹久の表紙絵が冠されて発売された楽譜は大人気を博し、有名人から庶民まで幅広く愛唱されてきました。李香蘭の歌唱によるレコードは1942年に発売されています。

「海燕」(1941年発売)は、大自然の中を自由に飛翔する海燕のように、のびやかに歌唱したいという素直な願いが歌われています。穏やかなワルツ風の Aria で、たっぷりと披露される小粋なコロラトゥーラ(一音節に装飾的な技巧が凝らされた歌唱)も聴きどころ。

「何日君再来」は、上海映画『三星伴月』(1937)の挿入歌として制作された曲で、ほどなく香港映画『孤島天堂』(1939)挿入歌として人気を博しました。同年日本では渡辺はま子が日本語歌詞版のレコードを発売、翌40年には李香蘭が中国語版のレコードを発売してヒットしました。大切な人の帰りを待つ思いが描かれる素朴な歌詞は、時代によってさまざまに政治的意味を読み取られ、禁じられたり危険視されたりしながらも、愛唱され続けてきました。

「夜来香」は、李香蘭にとって最大のヒット曲で、彼女のステージではほぼ必ずと言ってよいほど歌われた人気ナンバー。黎錦光が李香蘭のイメージに合わせて作詞・作曲したとも言われます。曲名の通り、夜に良い香りのする夜来香や夜鳴き鶯など、夜に縁ある題材が華麗にあしらわれ、愛する人への募る思いが情感豊かに歌われます。1944年に上海でレコード発売され、1950年には佐伯孝夫の日本語歌詞によるレコードも発売されました。「東京夜曲」は、昭和歌謡のヒット・メーカー佐伯孝夫作詞・佐々木俊一作曲のタッグが手がけた楽曲の一つで、1950年に山口淑子名義でレコード発売されました。失われた愛への追憶が、ブルースの曲調で、憂いを帯びつつも軽やかに歌われます。

「懐かしのタンゴ」は、阿部豊監督の映画『流星』(1949年)の主題歌の一つで、李香蘭(山口淑子名義)演じる愛子が、警察に追われるギャングの首魁の愛人としてキャバレーで働いている設定も、歌詞や音楽に反映されています。微笑ましくもはがゆい恋の駆け引きが、タンゴのリズムに乗って歌われます。

「Persian Bird」は、『私の鶯』の挿入歌で、李香蘭演じるマリヤ(満里子)が、育ての父親である白系ロシア人音楽家のピアノ伴奏に合わせて歌う曲です。伴奏の独特なリズム型とコロラトゥーラが特徴的なこの歌を、本日はジャズ編曲版でお楽しみください。

「虚飾の街 I 〜どこにもない過去へ〜」は、高橋悠之輔による新作(世界初演)。時代に翻弄され「戦中・戦後」を生きる古今の時のゆらぎのはざまで、見えるのは・聴こえるのは夢か現か、虚か実か。無調の前奏から諧謔的なワルツを経て、李香蘭のための楽曲にも通じるさまざまなジャンルのスタイルが混淆し、心を惑わせ揺さぶります。「夜霧の馬車」は、流行歌曲王とも名高い古賀政男の作曲、西条八十による作詞で、1941年にレコード発売されました。馬車の車窓からの情景に見立てて、愛する人のいる港町や故郷の光景や音風景が歌詞に描かれ、感傷的な旋律が慕情を誘います。

「売糖歌」は、アヘン戦争100周年を記念して制作された『萬世流芳』(1942)の劇中歌で、アヘン漬けになり苦しむ恋人を救おうとする健気な思いが愛らしく歌われます。

「私の鶯」は、同名映画の挿入歌で、李香蘭演じる主人公が、野外音楽堂で行われる慈善演奏会で堂々たる歌唱を披露する場面で歌われます。ゆったりと哀愁ただよう Aria 風の部分と、勇ましく疾走感のある部分の対比が見事です。

「蘇州夜曲」は、長谷川一夫演じる日本人青年と、李香蘭演じる中国人娘が主人公の満州映画『支那の夜』(1940年製作)の挿入歌。映画の主題歌をはじめ、数多くのヒット曲を生んだ服部良一による作曲で、物語の最終版、愛し合う二人の感動的な再会の場面でこの曲が効果的に登場します。情緒あふれる五音音階の旋律とジャズ風の洒脱なスタイルが融合して独特な魅力を放っており、数多くの歌手たちがカバーし歌い継がれています。

(成田麗奈／音楽学)



Creative Garden Tokyo の YouTube チャンネルです。
チャンネル登録をよろしくお願いいたします。